

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-補-E-19-0600-40-3_改1
提出年月日	2021年10月12日

補足-600-40-3 主蒸気逃がし安全弁排気管の耐震評価について

1. 概要

主蒸気逃がし安全弁排気管について、耐震クラスは表1のとおりであるが、添付書類「IV-2-1-4 耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分の基本方針」に示すとおり、基準地震動 S_s に対してドライウェル内及びサプレッションチェンバ内の主蒸気逃がし安全弁排気管が破損しないことを確認することとしており、本資料はその確認結果を説明するものである。

表1 主蒸気逃がし安全弁排気管の耐震クラス

	耐震クラス
ドライウェル内	Bクラス (S_s 機能維持)
サプレッションチェンバ内	Bクラス (S_s 機能維持)

2. 評価方針

主蒸気逃がし安全弁排気管は重大事故等クラス2管として評価を実施しているため、設計基準対象施設及び重大事故等対処設備としての評価条件を比較し、重大事故等対処設備としての評価結果から設計基準対象施設として基準地震動 S_s に対して機能維持することを確認する。

2.1 評価条件

	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	考慮すべき地震動	許容応力
設計基準対象施設	3.80	249	基準地震動 S_s	IV_{AS}
重大事故等対処設備	4.71	262		IV_{AS}, V_{AS}^*

注記*：許容応力状態 V_{AS} は許容応力状態 IV_{AS} の許容限界を使用し、許容応力状態 IV_{AS} として評価を実施する。

3. 評価結果

2.における評価条件の比較から、設計基準対象施設としての評価条件は重大事故等対処設備としての評価条件を下回っている。重大事故等対処設備として、添付書類「VI-2-5-3-1-2 管の耐震性についての計算書（主蒸気系）」に示すとおり、ドライウェル内及びサプレッションチェンバ内の主蒸気逃がし安全弁排気管*は、評価結果が許容値を満足する。よって、設計基準対象施設としても基準地震動 S_s に対して機能維持することを確認できる。

注記*：配管モデル MS-001, MS-002, MS-003, MS-004

4. 結論

ドライウェル内及びサプレッションチェンバ内の主蒸気逃がし安全弁排気管は、設計基準対象施設としての評価条件が重大事故等対処設備としての評価条件を下回っている。よって、重大事故等対処設備としての評価結果から、設計基準対象施設としても基準地震動 S_s に対してドライウェル内及びサプレッションチェンバ内の主蒸気逃がし安全弁排気管が破損しないことを確認した。